【委員会名】	産業建設常任委員会
【日　　時】	令和８年５月２７日（水）　１８時００分～１９時３０分
【会　　場】	ひろでん宮島まちづくり交流センター

質疑内容	会場での回答
今回はじめて議会報告会に参加しましたが、参加者が8名という現実には、率直に危機感を覚えました。地元から議長経験者まで輩出してきた地域であり、長年にわたり地域を支えてこられた諸先輩方のご尽力には、改めて敬意を感じる一方で、現在の参加状況を見る限り、その重みや積み重ねが、市民全体へ十分継承されているのか、考えさせられる部分もありました。特に合併以降、地域全体としては、それぞれ日常や正業に追われる中、地域政治への関心や熱量そのものが、少しずつ薄れている現実も感じます。だからこそ今後は、「開催した」という実績だけでなく、“参加したくなる議会”“次世代へ自然と関心が広がる議会”への転換を期待しております。（広報）	
小学校給食無償化については、必ずしも全員が無償化を望んでいるわけではなく、量や品数を増やしてほしいとの声もあるが、実態把握できているのか	一部の意見としてはあるのかもしれないが、学校給食の量は科学的根拠の元で決まっているものである。質に関しては自校給式とセンター方式で少し差があるかもしれない。
常用漢字への廿日市市の「廿」と杓子の「杓」等の変更を要望する。 廿日市市もひらがな表記が多く見られ、宮島口にある「しゃもじ広場」は本来なら杓子広場だ。管理者の県に聞くと、名前を募集して決まったとのこと。 前回2010年改定で次回は2040年になる。とにかく、常用漢字への変更ができるように、出現頻度を増やすようお願いしたい。	この件に関しては、市がどの程度関与できるのか不明だが、何ができるのか研究したい。
市の予算額と契約額の乖離、随意契約や指名競争入札の不透明さがある。新エネルギー関連会社の設立（副市長が社長との指摘）、観光協会と商工会議所の法人統合、職員や家族の関与などに関する複数の疑義がある。	ノーコメント
訪問税の使い道にはついては、しっかり島民の皆さんに説明をしていただきたい。また、包ヶ浦の利活用に関しても、いきなりプロポーザルの募集ということにならないように島民にしっかり説明していただきたい。（産業建設）	市へ伝える。
宮島の伝統工芸について職人さんの後継人がいない状況がある。地域支援員制度を利用して3年間は従事するが、なかなか定着しない状況がある。何かいいアイデアがないかと感じている。市の方も問題意識を持って、いかに伝統工芸を残していくか考えていただきたい。（産業建設）	地域支援員の取り組みなど、どのような改善策があるか、市へ投げかける。
毎年予算規模が増加しており、特に過去4年間での150億円の増加は「黒字倒産」のようなリスクがあるのではないか	予算増は物価上昇や平良丘陵開発などの大型事業が要因であり、予算については国や県からのチェックも受けているため、問題ない。さらには今後の持続可能なまちづくりの為には必要不可欠である。
訪問税は宮島の訪問に関する事業に関して使われると聞いていたが、廿日市版ＤＭＯへの支出に使われていることは本来の趣旨とは違うのではないか。また、収支報告がいくら入っていくら使ったかまで明記されておらず不透明である（産業建設）	訪問税は5年に1度の見直し、検証のサイクルであり、来年度に見直しの予定である。使途については、行政、及び議長と相談し、本年度10月までに運用報告と意見交換の場を設けることを検討する。

質疑内容	会場での回答
今回はじめて議会報告会に参加しましたが、参加者が8名という現実には、率直に危機感を覚えました。地元から議長経験者まで輩出してきた地域であり、長年にわたり地域を支えてこられた諸先輩方のご尽力には、改めて敬意を感じる一方で、現在の参加状況を見る限り、その重みや積み重ねが、市民全体へ十分継承されているのか、考えさせられる部分もありました。特に合併以降、地域全体としては、それぞれ日常や正業に追われる中、地域政治への関心や熱量そのものが、少しずつ薄れている現実も感じます。だからこそ今後は、「開催した」という実績だけでなく、“参加したくなる議会”“次世代へ自然と関心が広がる議会”への転換を期待しております。（議運）	
＜開催時期と時間帯について＞ 5月、10月の年2回開催してほしい	
「18時開始」は“市民参加”ではなく、“来られる人だけ来ればいい”という発想 平日18:00　〜19:30という設定は、現役世代の生活実態を全く理解していない。 仕事終わりの通勤時間、育児、介護、夕食準備——最も身動きが取れない時間帯である。 つまりこれは、 「幅広い市民の声を聞く会」ではなく、 “最初から参加者を限定した会”に近い。 結果として、 毎回同じ顔ぶれ、 毎回同じ意見、 毎回同じ空気感になる。 それを「市民参加」と呼ぶなら、かなり欺瞞的だ。 本気で若い世代を呼び込みたいなら、土日開催、 オンライン併用、 アーカイブ配信、 匿名投稿型QAなど、 いくらでも方法はある。 それをやらない時点で、 「来てほしい」のではなく、 「例年通り無難に終わればいい」が本音に見える。	
＜開催場所＞ 散らばっていてバランスが良い	
「市全体対象」と言いながら、実質“地域限定イベント”になっている 宮島開催自体が悪いわけではない。 問題は、 “廿日市市全体の議会報告会”として開催するには、 アクセス設計があまりにも雑な点だ。 特に余談だが、佐伯地域/ 吉和地域/ 大野地域など、 移動負担の大きい市民への配慮が極めて弱い。 高齢者の公共交通問題をテーマに掲げながら、 その会場自体がアクセス負担を生んでいるのは、 皮肉として完成度が高すぎる。 「来られる人だけ来ればいい」 という行政特有の内向き体質が、 会場設定から既に滲み出ている。	
＜肯定的な意見＞ 意見交換会と議員の説明も良かった	
(1)テーマ設定への違和感 「高齢者福祉」だけでは、都市に未来は生まれない。バス運賃均一化や高齢者割引は重要だ。だが、 問題はそこだけしか見えてこないこと。人口減少、 若年流出、 子育て負担、 空き家、 雇用、 地域経済、 交通弱者、DX、 観光依存、 災害対策——本来議論すべきテーマは山ほどある。にもかかわらず、 毎回“安全なテーマ”だけを扱い続けることで、 議会報告会そのものが 「未来を語る場」ではなく、 “苦情処理と説明会の中間施設” になっている。市民が求めているのは、 「現在の説明」だけではない。 “この街をどうしたいのか” という熱量だ。そこが決定的に足りない。	
（2）議会報告会そのものへの違和感 「説明責任」を履き違えている。議会報告会が、 “決まったことを説明して理解してもらう場” になってしまった瞬間、 それは既に対話ではない。本来、市民との意見交換とは、 行政や議会にとって“不都合な声”も受け止める場であるはずだ。しかし実際には、荒れそうなテーマは避ける ・批判は整理して受け流す ・時間内で無難に閉じる ・最後は「貴重なご意見ありがとうございました」このテンプレート化が進みすぎている。市民側も、 「どうせ何も変わらない」 と感じ始めている。これが最も危険だ。 “参加率低下”より怖いのは、 “期待そのものを失われること”である。	
＜さくらについて＞ 以前よりは改善しているが、まだ文字を詰めすぎで内容がわかりにくいのでレイアウトを工夫して欲しい。表やグラフの活用など。	

質疑内容	会場での回答
議会広報『さくら』は、「市民に読まれる広報誌」ではなく、“議会が作って満足する冊子”になっていないか。正直、若い世代・現役世代の多くは、届いても開かず、そのまま資源ゴミ行きが現実だ。 にもかかわらず、未だに紙中心、長文中心、無難な行政文章中心。これでは、「伝える努力」ではなく、“配った実績作り”に見えてしまう。本当に必要なのは、「発行したか」ではない。 “市民に届いたか”“関心を持たれたか”“行動につながったか”である。	
＜肯定的な意見＞ とても良い事、色々と参考になった	
10月に宮島市民と話す会を設けると言われたが、1回でなくテーマ別に時間割をつくって2〜3回やって欲しい。	
運賃均一化により、短距離利用者の負担増と長距離利用者の負担減など公平性を損なうのではないか。	運賃の均一化はお客様にとって、一番分かりやすい施策であって、距離別の負担格差はやむを得ない面があると考えている。
高齢者の運賃割引も良いが、財源に問題はないのか。	財政指標である財政調整基金残高等の数値を我々議員も注視している。運賃施策では財政支出も増加するが、運賃割引をすることによって外出機会も増え、歩行数も増えることによって、健康維持につながり、医療費などの支出が減少することを期待できる。
直接議員と話す機会があり良かった。 また、お願いします。	
この運賃施策の効果についてだが、利用者増加や収支改善など、どのようなKPIを設定しているのか。	財政出動に関しての効果は先ほど説明したところであるが、KPIの設定については確認する。
他のエリアでの内容をさくらで公表して欲しい。	
誠（不言実行）のない行政に対して、有言実行の議会を作ってください。	
民泊については、しっかりとした管理体制のもと、営業をするようしっかり指導していただきたい。	民泊については、県が許認可権限者だと思われるが、市がどのように関与できるか、市へ伝える。
宮島のタクシーの運転手不足は問題ないのか	以前は運転手不足が懸念されていたが、現在は3名体制で運行できている
廿日市市の明るい未来を語る会だなと思いました。若い方も参加されたら良いなと感じました。ありがとうございました。	
＜否定的な意見＞ 行政は黙って成立させる。信用できない。	
公衆トイレが観光客の増加に対し、圧倒的に不足しており、増設してほしい	表参道のトイレ増設の計画はあるので、設置数、場所等確定次第公表する
メープルライナーに観光客がたくさん乗車して、地元住民が乗車しにくい状態となっているので改善してほしい	メープルライナーに関する住民アンケートを実施し、便数、ルートなどの改善策を検討する
訪問税は宮島の訪問に関する事業に関して使われると聞いていたが、廿日市版ＤＭＯへの支出に使われていることは本来の趣旨とは違うのではないか。また、収支報告がいくら入っていくら使ったかまで明記されておらず不透明である（総務）	訪問税は5年に1度の見直し、検証のサイクルであり、来年度に見直しの予定である。使途については、行政、及び議長と相談し、本年度10月までに運用報告と意見交換の場を設けることを検討する。

質疑内容	会場での回答
宮島表参道に観光客が集中し、誘導策が必要ではないか。黒い門のを解放できれば海岸通りにも誘導が出来、混雑緩和になるのではないか。有事の際の安全確保がなされてないのではないか	この問題は地元の方々、商店街の方々と話し合って決めていかないといけない問題である。門の解放には商店街の方々からの反対もある。花壇の撤去や電線の地中化などで少しでも緩和できればと思う。こちらも対応策の場を１０月までに開催したい
訪問税の使い道にはついては、しっかり島民の皆さんに説明をしていただきたい。また、包ヶ浦の利活用に関しても、いきなりプロポーザルの募集ということにならないように島民にしっかり説明していただきたい。（総務）	市へ伝える。
宮島の伝統工芸について職人さんの後継人がいない状況がある。地域支援員制度を利用して3年間は従事するが、なかなか定着しない状況がある。何かいいアイデアがないかと感じている。市の方も問題意識を持って、いかに伝統工芸を残していくか考えていただきたい。（総務）	地域支援員の取り組みなど、どのような改善策があるか、市へ投げかける。